

■ 戦略研89th ミーティング パネルディスカッション議事録

日 時：2012年12月1日(土) 14:00－17:00

場 所：東京・竹橋 ちよだプラットフォームスクウェア

テーマ：「東日本大震災以降の日本の寄付文化と社会起業

～東京のビジネスパーソンにて復興支援にいま何ができるか～」

発表者：基調講演

佐藤大吾さん（一般財団法人ジャスト・ギビング・ジャパン代表理事）

パネルディスカッション

花田寛明さん（石巻復興プロジェクト）

坪田哲司さん（SEEDx 地域未来塾）

青鹿昌喜さん、杉山章子（セキユリテ被災地応援ファンド）

増田悠太朗さん（気仙沼仕事創出プロジェクト）

参加者：参加者 17人（発表者を含まない）

（銀行員、財務コンサルタント、経済アナリスト、会社経営、会社員、大学院生、
NPO 法人理事長、弁護士、行政書士、司法書士等）

パネルディスカッション「東京のビジネスパーソンにて復興支援にいま何ができるか」

①パネラーの自己紹介

花田さん

石巻の出身です。石巻に育ててもらったことへの義務を感じています。

震災後、東京圏に住む石巻出身者が30人～40人集まり、地元には帰れないが東京で何ができるかを考えました。

また、ビジネスの領域で支援できないかと考えました。

この検討が、大森商店街の石巻マルシェに結実しました。

石巻マルシェは商店街グランプリを獲得することができ、商店街の活性化にもつながっています。

継続が重要と考えています。現在、50人弱のメンバーにて運営しています。

石巻マルシェは石巻への想いの昇華の場となっています。この想いをいかに伝えるかを考えています。

石巻マルシェにて約700～800万円を石巻に還元することができました。今後、B to Bを目指しています。このために、フレスコという会社を枠としてビジネスを展開しています。

石巻の事業者はその想いを届けようと思っても届けられないでいます。

東京圏などのエンド・ユーザーの声を聴く機能がありません。たとえば、売上げ50億円の水産加工会社でも営業担当者は3人しかいないということもあります。あるいは、営業担当者が社長しかいないところもあります。

来年、石巻に戻る予定です。漁師になることを考えています。1次産業、生産サイドに入ることです。

三陸は高齢化が進んでいます。このままだと、魚を獲る人がいなくなります。それでは、震災の被害から復旧しても元も子もありません。

現在、漁師にはどうやったらなることができるか、ここがブラックボックス化しています。ここを解明したいと考えています。

坪田さん

内閣府復興支援型地域社会雇用創造事業「SEEDx 地域未来塾」は被災地に仕事を生み出せる人を作ることを目的としています。

ソーシャル・メディア＋コミュニティを主軸にしています。

インターン形式で地元の人材育成を行い、雇用を生み、社会起業へつなげるようにしています。

ただし、社会起業は立上げた後の支援が大切です。H25年4月にて内閣府・・・としては終了しています。これ以降の支援を検討しています。

「SEEDx 地域未来塾」の拠点は、福島（福島市）と三陸（大船渡市）にあります。両拠点合わせて、30プランを支援しています。

福島のプランを支援していて見えてきたことは次のとおりです。会津地域は六次産業化や観光のプランが多いです。風評被害に遭っている地域です。相双地域は医療、介護、見回りなどのニーズが高いです。いわき地域は避難先の生活支援を行うプランとなっています。そして、福島全体ではクラウド、スマホなどの活用をするプランとなっています。

最後になりますが、カネだけでなくヒトの支援が必要です。

杉山さん／青鹿さん

ミュージック・セキュリティーズはもともとインディーズのミュージシャンのためのファン্ডとして発足しました。その後、純米酒のためのファン্ডの組成も行ってきました。

2011年3月11日以降、被災した企業のために一口10,500円のファン্ডを組成しています。内訳は5,000円が寄付、5,000円が出資、500円が手数料です。このファン্ডは10年間

の匿名組合契約となっています。

36事業者に対してファンドを組成して、8億7000万円を調達しています（募集金額は11億円）。そのうち、22ファンドについては調達が終了しています。

被災地応援ファンドはアジアにおけるマイクロ・ファイナンスを想定していました（海外のBOPへの適用を検討していた）。

震災からの1年目は、コンスタントにお金が集まりました。しかし、2年目は、2012年3月に一度盛り上がるがその後は停滞しています。調達残額は約2億円あります。

これに対して投資状況の分析を行いました。判明したことは1人が1つのファンドにしか投資していないということです（62%）。セレクション・バイアスがかかっています。

もう1回投資してもらうためのアンケートも実施しました。アンケートにあった不満とする点はファンドの特典が送られてこないというのがありました。また、すでに被災地は復興しているように感じているというのも見えてきました。

たとえば、養殖ホタテの記事に対してはこれでもう大丈夫だろうという感想です。実際は稚貝を北海道から仕入れています。本来であれば稚貝も被災地でまかなっていたのがそうではなくなっています。つまり稚貝購入のためにいままでとは違うコストがかかっているのです。とすると、利益率が違ってきます。

こういうところが見えていないのです。

また、陸前高田にはしょう油醸造元の八木澤商店があります。マスコミなどで工場再開という記事が出ます。しかし実際はこれからしょう油を仕込みということです。製品の出荷は翌年になります。

このような点を実際に見ていただくために、ミュージック・セキュリティーズでは被災地支援ツアーを企画、実施しています。

また、企業向けの提案も行っています。たとえば、三菱地所のマッチング・ギフトです。このギフトについては会社が50%を負担します。

増田さん

ローターアクト（経営者の国際的な親睦団体「ロータリークラブ」の青年部。18歳～30歳のメンバーにて構成）をバックグラウンドとして気仙沼の若者の仕事創出のためのサポートをしています。

東日本大震災後、ローターアクトにてスタディ・ツアー（ボランティア）、被災地応援SNSの立ち上げを行いました。

被災地の状況を実際に見て、単発の体力ボランティアではなく、中長期にて被災地の自立のた

めの支援をしたいと考えました。現地の雇用につながる支援です。

気仙沼では東日本大震災後、人口の 5,000 人が流出しました。ほとんどが 40 代以下です。気仙沼にて産業の担い手を育成する必要があります。

しかし、気仙沼では現地の雇用がなかったり、高学歴者ほど気仙沼市内に仕事がないというミスマッチが起きています（これは、大震災前から）。気仙沼の主たる産業である水産加工業がこの代表例になります。

また、水産加工会社（特に小規模な事業者）は販路がなくなっています。この課題の解決は喫緊です。

そこで、気仙沼仕事創出プロジェクトでは以下のプランを実施しています。

プラン①「東京における販売支援、情報発信、ファン作り」（一般客だけでなく、飲食、流通を対象）

プラン②「経営者向けの定期購買（水産加工会社が売上げ予測をすることができる）」

プラン③「高校生起業塾」（若者の流出に歯止めをかける。気仙沼で新たに事業を起こす）

プラン④「東京圏にいる気仙沼出身の 20 代を見付けて気仙沼仕事創出プロジェクトのサポーターに」（U ターンのきっかけにしてもらう）。

【地域／活動の課題】

花田さん

現地で事業を引っ張っていく人がいない状況です。

坪田さん

福島県は東京都の 6 倍、大阪府の 7 倍という広さです。大部分は盆地。また、農業県です。

相双地区。常磐線は 2 か所で不通が続いています。南相馬市の原町以南は津波被害も放置されています 30 代、40 代の女性と子供が流出しています（土木関係者である 30 代、40 代の男性は流入）。高齢者は被災地から離れません。とすると、医療、介護が必要です。とはいえ、サービス産業の担い手がいません。また、スーパーなど店舗を出したくても出せません。

相双地区。復旧だけでも 30 年かかります。最も長い期間の復旧・復興支援が必要になります。

会津地区。放射線量は東京と変わらないのですが風評被害があります。これによる農業の廃業が起きています。こういう地域もあるという理解が必要です

地元に行き、地元の人たちと友だちになることが一つの解決手段です。地元の人と組んでプロセスにかかわっていきます。このために、ソーシャル・メディアの活用などを行っています。

杉山さん

セキュリティへの新規開拓とリピーターが課題です。被災地の情報を欲していることがわかります。復興の進捗を伝えています。

今後、寄付よりも出資分を増やすことを考えています。

増田さん

現地で動ける人が少ないです、そして、若い人が少ないです。被災地からの情報発信が少なくなっています。

東京圏にて気仙沼出身者の発掘を行っています

【参加者への協力依頼】

花田さん

あるべき姿を実現するためこれから現地に入ります。

すでに入っているメンバーは漁師を50%、SEを50%にて現地で仕事をしています。

一年物のカキを浜焼太郎という干物屋チェーンに卸しています。ぜひ食べに来てください。

坪田さん

現地におけるインターンを募集しています。

杉山さん

12／15、石巻、十三浜、南三陸を回るツアーを行います。バスガイドをします。こちらにぜひご参加下さい。

増田さん

イベントやお祭り、空き店舗など気仙沼の水産加工品の物販を行うことのできる場所をご紹介します。高校生の起業塾について講師の募集を行っています。

以上